

科目名 (科目番号)	臨床栄養学Ⅱ (094281)	教員名 菊池浩子	学科等	保健栄養	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			オフィスアワー			D307研究室(菊池)	
授業概要	<p>傷病者・要介護者に対して、病態や栄養状態に合わせた適切な栄養管理を行うために、管理栄養士としての視点からの各疾患や病態について理解する。その上で、対象者の栄養状態の把握と個別の栄養介入方法を学び、栄養介入の評価方法も合わせて理解し、根拠に基づいて栄養管理を考える態度を養う。臨床栄養学Ⅰに引き続き、チーム医療への参画を想定し、他職種との連携が可能となるように、管理栄養士としての専門性と、チームの中での管理栄養士の役割の両方について、各自が自立して考えられる態度を養う。</p>						
準備学習	毎回の授業について(少なくとも)1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	疾患・病態別の栄養管理(6)	到達目標:肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症の栄養療法が理解出来る 学習内容:代謝内分泌疾患:肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症の栄養療法を学ぶ				
	2	疾患・病態別の栄養管理(7)	到達目標:糖尿病および糖代謝異常に関連した疾患の栄養療法が理解出来る 学習内容:代謝内分泌疾患:糖尿病および糖代謝異常に関連した疾患の栄養療法を学ぶ				
	3	疾患・病態別の栄養管理(8)	到達目標:脂質異常症および脂質代謝異常に関連した疾患の栄養療法が理解出来る 学習内容:代謝内分泌疾患:脂質異常症および脂質代謝異常に関連した疾患の栄養療法を学ぶ				
	4	疾患・病態別の栄養管理(9)	到達目標:代謝内分泌疾患の病態と栄養療法の関連が理解出来る 学習内容:代謝内分泌疾患の病態と栄養療法の関連を学ぶ				
	5	疾患・病態別の栄養管理(10)	到達目標:高血圧、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全の栄養療法が理解出来る 学習内容:循環器疾患における栄養療法を学ぶ				
	6	疾患・病態別の栄養管理(11)	到達目標:急性・慢性糸球体腎炎症候群と急性・慢性腎不全の栄養療法が理解出来る 学習内容:腎疾患における栄養療法(1)を学ぶ				
	7	疾患・病態別の栄養管理(12)	到達目標:慢性腎臓病、ネフローゼ症候群と糖尿病性腎症と透析の栄養療法が理解出来る 学習内容:腎疾患における栄養療法(2)を学ぶ				
	8	疾患・病態別の栄養管理(13)	到達目標:周術期・クリティカルケア、悪性腫瘍の栄養療法が理解出来る 学習内容:周術期・クリティカルケア、悪性腫瘍の栄養療法を学ぶ				
	9	疾患・病態別の栄養管理(14)	到達目標:神経性やせ症・神経性過食症の栄養療法が理解出来る 学習内容:精神・神経系の疾患における栄養療法を学ぶ				
	10	疾患・病態別の栄養管理(15)	到達目標:気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患の栄養療法が理解出来る 学習内容:呼吸器疾患における栄養療法を学ぶ				
	11	疾患・病態別の栄養管理(16)	到達目標:貧血・くる病・骨軟化質の栄養療法が理解出来る 学習内容:血液系疾患・運動器系(骨格系)の疾患における栄養療法を学ぶ				
	12	疾患・病態別の栄養管理(17)	到達目標:食物アレルギーの栄養療法が理解出来る 学習内容:免疫・アレルギー疾患における栄養療法を学ぶ				
	13	ライフステージ別栄養療法(1)	到達目標:フレイルティ、骨粗鬆症、サルコペニア、褥瘡の栄養療法が理解出来る 学習内容:高齢期に特徴的な病態に対応した栄養療法を学ぶ				
	14	ライフステージ別栄養療法(2)	到達目標:先天性代謝異常症、消化不良症、周期性嘔吐症の栄養療法が理解出来る 学習内容:乳幼児・小児に特徴的な病態・疾患に対応した栄養療法を学ぶ				
	15	ライフステージ別栄養療法(3)	到達目標:妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病が理解出来る 学習内容:妊産婦・授乳婦に特徴的な病態・疾患に対応した栄養療法を学ぶ				
成績評価の方法・基準	<p>確認試験(10%)、期末試験(90%)を総合的に判断して評価します。 これらの項目の総合評価への寄与割合は、授業開始時に確認伝達します。</p>						
教科書	カレント臨床栄養学 (2年次臨床栄養学Ⅰで購入済み)		明渡陽子ほか 編		建帛社		
参考図書	病気がみえるシリーズ 認定NSTガイドブック		医療情報科学研究所 日本病態栄養学会 編		メディックメディア メディカルレビュー社		
教員からのメッセージ	<p>学生さんの興味関心や、その他の必要に応じて、上記の内容・順序を変更する場合があります。参考書は、上記以外にも、授業内に適宜紹介します。臨床栄養学は、人体の構造と機能、生化学、疾病の成り立ち、基礎栄養学、応用栄養学といった複数科目の総合的な理解を必要とします。人体への理解が深まる楽しさを味わって下さい。この授業は、臨床栄養学から引き続いての内容となっています。なお、栄養量の計算には電卓を使用しますので、ご用意ください。</p>						